



“ホッと”なネットワーク!

かんちゃん通信 第6号

早春号 2017年3月1日発行

自分らしく そして安心できる

フィールド

居場所 を一緒に作りませんか!



「子どもたちが一緒に遊べ、食事ができる場所として、楽しいひとときでした。子どもだけでなく親やおとなにとっても、一緒にご飯を食べることによって地域とつなぐ、ほっとできる場所、悩みを話せるあたたかい場所になるのでは、と思います。

また、社会との接点が少なくなる子育て中の方や核家族の方など、『個で生きている人』も多く、どうしても『自分で何とかしよう』と思ってしまう。

かんちゃんの小さな家で感じることができる“ほっとする気持ち”によって、助けられる方がたくさんおられると思います。」

(第2回ホットルーム参加のお母さんより)



12月と1月に子ども食堂:かんちゃんの小さな家「ホットルーム」を開催しました。(3~4面をご覧ください)

←お昼のメニュー 12月は「スポンジケーキとプチおにぎり」、1月は「トック(韓国・朝鮮のおもちスープ)とフルーツ」を作りました。

続けてみてね♪ ホームページ <https://kancyan-house.com/> (4面)

おねがい(^_^)♪ 「かんちゃんの小さな家」 サポーター(友の会)募集中!

皆さまの応援をお願いします! (チラシ・HPをご覧ください)

Kami membuat nasi goreng ナシゴレンを作りました
Pertemuan pertukaran "rumah kecil Kan-chan" adalah Sangat menyenangkan!

“かんちゃんの小さな家”の交流会 とっても楽しかったよ!



市内在住のイッフサン・グナワンさんと牧ユニーさんから、ナシゴレンの作り方やインドネシアの文化や生活について、わかりやすく教えていただきました。後半は、イッフサンさんの友だち2名も加わって、25名の参加者が3グループに分かれて、食文化をとおした楽しい交流のひと時をすごしました。

この交流会をきっかけに、イッフサンさんとユニーさんからたくさんのお話を聞かせていただき、ありがとうございました！またいろんな料理も教えてくださいね！楽しみにしています。

[5面に関連の記事があります]

文化の違い・互いの違いを

尊重しあえる地域社会って

すてきですね 😊😊😊



イッフサンさん

日本に来て2年になります。日本語に興味がありました。日本で、友だちをたくさん作りたいです！ナシゴレンは、12歳のとき母から教えてもらって、調味料の作り方を練習しました。今日の交流会は、子どもたちの表情が明るくて、とても楽しかったです。また、違う料理を教えたいです。よろしくお願いします。

初めて覚えた日本語は「おはようございます」「ありがとうございます」でした。ヒジャブは、女性を守るための教で、洋服も大きなサイズを着用します。インドネシア人のヒジャブはカラフルですが、ファッションではありません。免許証の写真やパスポートもOKです。職場の店長さんから「いいですよ。仕事してもらえばOKです。」と言われて安心しました。好きなものはお寿司で、一度「ゆかた」を着てみたいです！

ユニーさん

～参加者の感想より～

- ◆ ヒジャブをなぜ巻くのか、どんな言葉が話されているのか、インドネシアの文化をたくさん学びました。ヒジャブを巻いてもらったときは、少し恥ずかしかったけれど、インドネシアの女性はいつもかぶっているなんて大変だなあと思いました。
- ◆ 子どもと一緒に参加しました。私自身、短期ですがタイに留学したこともあって、またナシゴレンが食べたい！との思いと、子どもが人見知りなので、この会をきっかけに少しでも、皆さんと交流できれば・・・との思いで参加させていただきました。

インドネシアの言葉を教えてもらって、帰宅後、パパに自慢気にインドネシア語を教えていました。また、ユニーさんからヒジャブをかぶせていただき、とっても素敵な体験ができました！

※「ヒジャブ」・・・イスラム教徒文化圏のムスリム(イスラム教徒)の女性が着用する、頭髪を覆い隠すためのスカーフのような布。

(『新語時事用語辞典』)

子ども食堂の役割を担って

これまでの「多文化共生・地域交流活動」に加えて



(3)

新しく「かんちゃんホットルーム」がスタート!



「子ども食堂」は、子どもをまんなかにおいて、
一人ももれなく 住民がいきいきと暮らすことのできる
ともに生きる地域をつくっていくための活動です。
(「子ども食堂全国交流会 in しが」より引用)

第1回:松ぼっくりツリーを作りました!
お昼は、スポンジケーキとプチおにぎり...「上手にできました!」(12月)

○ケーキを作るのがすごく楽しかったです。
また、お店で売られていないケーキを作りたいです。みんなとごはんを食べられてよかったですと思いました。
○おともだちができて、うれしかったです。
○まつぼっくりを2こ作りました。かざりつけは、時間がいっぱいかかったけれど、自分がまんぞくできたのがうれしかったし、楽しかったです。また行くときがまちどおしいです。

かんちゃんの小さな家の「多文化共生・地域交流会」の活動が、昨年の秋から滋賀県社会福祉協議会が推進する「子ども食堂のモデル事業」と重ねて行うことになりました。そして、新しく「かんちゃんホットルーム」という愛称の交流会をスタートしました。ここでは、子どもたちの“こえ”を紹介します。[「お母さんからのメッセージ」は4面です]



第2回:ぶんぶんゴマとパッチンがえるを作って遊びました♪
お昼は、トックと フルーツ!(1月)

○初めて作りました。ぶんぶんゴマは少しむずかしかったです。かん国のおぞうには、初めて食べました。おいしかったです。
○ぶんぶんゴマとぱっちゃんガエルの作り方をおしえてもいました。うまくできるようになりました。



↑お父さんもスポンジケーキにチャレンジ♪



プチおにぎりを作っています

かんちゃんホットルーム お気軽にどうぞ!

- *開催の数 年5~6回
- *時間 10:30~13:00
- *場所 かんちゃんの小さな家
- *参加費 子ども100円 おとな200円
- *内容・持ち物 案内のチラシでお知らせします
- *参加者の規模 20名程度(スタッフ以外)
- *これからの予定 6ページの行事案内やホームページで紹介しています。かんちゃんの小さな家に直接問い合わせてもらっても結構です。

あっ!とんだ(^_^)



アドバイザーの山田志歩先生、ありがとうございました!

(4)

続けてみてね♪ <https://kancyan-house.com/>

かんちゃんの小さな家 ホームページ



どのMENUからでも、「かんちゃんの小さな家」の活動全体を知っています！

交流会や相談ルーム等のお知らせを、随時アップします。HP上から、申し込み用紙がダウンロードできます。

「お問い合わせホーム」をご利用ください。皆さまからの質問や相談、交流会や研修会等に参加した感想、メッセージ等をお気軽にお寄せください。

“とっても素敵なホームページ”と“あたたかく 心強いメッセージ”

ありがとうございました ♥



森 真理さん(株式会社リヒトス:京都市)からのメッセージ

この度、「かんちゃんの小さな家」のホームページを制作させていただきました。子どもや、若者たちの成長を、地域の皆さんが集まりあって支えあう活動にとっても共感しております。

様々な悩みを抱えた子どもや若者たち、さらに育てる親御様も悩みを抱えておられる方はたくさんおられると思います。それぞれの家族だけでは乗り越えられないような困難も、相談できる人々、集まりあえる場所があることで乗り越えられます。

「かんちゃんの小さな家」は、きっと、困難に直面している子どもたちにとって、またその家族の方々にとって、とても大切な場所になると思います。一人でも多くの方にこの活動を知っていただきたいという思いで、ホームページを制作させていただきました。

子どもたちの成長を育む家族の皆様の笑顔が広がる活動を、これからも支援させていただきます。



子どもと一緒に参加して お母さんからのメッセージ♪



ホットルーム 第1回

◇松ぼっくりツリーでは、子どもたちの真剣さには驚かされました。「自分もできた!」「できるんだ!」という自信になってよかったです。地域の方から、手作りの心のこもったプレゼントをいただき、ありがとうございました。心が温かい気持ちになりました。

◇日々の生活の中で、ほんの少しの時間でもいいから、今日のように子どもと向きあい、同じものを見て笑ったり、一緒に作ったり、心通わせる時間をもてるといいと思いますが、なかなか難しく……。子どもたちの自由な発想を感じることができて、とても楽しい時間を過ごせました。

ホットルーム 第2回

◇ぶんぶんゴマは、私にとっては懐かしいものであり、娘にとっては初めての挑戦。最初は心配でしたが、帰るまでにはできるようになり、帰ってからも得意気にコマを回す姿はうれしそうでした。参加できてよかったなあと思いました。また、他国の料理を食べたり交流したりすることで、「外国人」「日本人」という壁をつくらぬ感覚を身につけさせたいと思います。

◇トックは優しいお味でした。海外旅行には行けないし、韓国料理など初めてのお料理が出る店は、子どもが食べるかわからないので、入れなくて……。子どもも私もよい機会になりました。おいしかったです。

スクールソーシャルワーク研究会しが 修復的対話(RJ)研修会
2017年度は5月20日(土)から始めます … 年間5~6回を予定

「いじめ」問題など 子どもの人間関係のトラブルを

「厳罰」ではなく 対話による解決をめざすプロセス



郭 理恵さん(NPO法人修復的対話フォーラム理事:大阪府)

対話による関係性の修復と問題解決のための理念・手法である修復的対話(Restrative Justice)。

スクールソーシャルワーカーとして公立の小中学校に勤務しました。そして、子ども同士、子どもと親、子どもと教師、さまざまな対立の場面に遭遇しました。多くの問題は、そこに関わる人と人との関係性のほころびによるものであるということに気づきながら、毎回悩みつづ、その場に関わってきました。そのなかで「修復的対話」に出会い、目からうろこが落ちる思いでした。

葛藤を抱えたときに、相手に、そしてなによりも自分自身に向き合わずして環境だけを変えることは、多くの場合、なんの解決にもならず、また同じことを繰り返してしまう結果を招くことにもつながります。「問題はおこったけれど、話し合っ解決することができた」。一人でも多くの子どもに、そんな体験の機会があるといいです。そのためには、子どもたちを信頼して寄り添い、葛藤の場にもともにあり続ける存在(ファシリテーター)が必要です。

修復的対話の源流は、世界各国のファーストネーションと呼ばれる人々に共通する、ある話し合いのための手法です。部族の伝統に基づいてとりおこなわれる儀式でもあり、そこには、その場を取り仕切る特別な存在が

います。有名な事例としては、南アフリカ共和国のマンデラ大統領がアパルトヘイト政策をとりやめ、新たな国を建国する際に実施された真実和解委員会。また、北米のナバホの人々は、いまま合衆国の裁判と並列にかれらの伝統的な裁判システムであるピースメイキングを行うことが認められています。日本にもアイヌの人たちのなかに、この対話の手法があります。



修復的対話の理念は、その場に集う人々の物語を互いに伝え合うことです。そのとき、そこに誰がいて、なにがおこり、だれがどんな思いをしてきたのか、そのことを輪(サークル)の中で語り合います。誰かがなしたことの影響について、関わった人すべてが発言する権利をもちます。ルールは「互いの話に耳を傾ける」「批判しない」「話したくないときは話さなくてもいい」「互いを尊重する」この4つです。修復的対話のファシリテーターは、この4つのルールが話し合いの場で適切に実行されることを見守る役割です。

修復的対話は、学校という子どもたちが育つ大切な場でおこる様々な葛藤の場面へのギフトになり得るのではないかと考えています。

かんちゃんの小さな家の交流会をきっかけに



地域社会とのかかわりが広がっています!



日本語教室ボランティア 岩元雪子さん

12月の多文化共生・地域交流会(ナシゴレンを作ろう)では、インドネシアの実習生さんたちに活躍の場をご提供くださり、本当にありがとうございました。彼らが、地域で日本人と交流する機会は、今までありませんでした。これを機会に、地域社会との関わりが広がり、日本での生活をより充実することを願っています。

日本語教室のアジアからの研修生さんたちは、真面目で熱心に勉強し礼儀正しいです。しかし、彼らと話しているうち、彼らが抱える問題を感じるようになりました。職場、地域からの孤立です。職場では日本人とは別扱いで、外国人のみの環境という人もいます。せっかく学んできた日本語も、朝と退社時の挨拶以外はあまり必要ないとのこと。 ↗

また、地域では、外国人と関わりをもちたいと思う日本人に、なかなか出会うことがないそうです。彼の同僚には、部屋でゲームをして過ごす人もいます。今後、増えるであろう若い外国人研修生、実習生さんたちが地域で「見える化」していくことが必要だと思います。

かんちゃんの小さな家と連携させていただき、彼らは日本語教室以外で、より幅広く多くの方々と接点をもつことが可能になりました。みんな、ナシゴレンが好きで、インドネシアに興味がありましたね。本当にありがとうございました。

(近江八幡市日本語交流教室

・安土教室ボランティア/主任児童委員)

相談ルーム／学習サポート教室／多文化共生・地域交流会／
 ホットルーム／スクールソーシャルワーク研究会しが等
 詳細は「かんちゃんの小さな家 ホームページ」をご覧ください！



子ども・若者相談ルーム

子育てや学校生活・卒業後の進路
 等で、困ったこと、気になることが
 あれば声をかけてくださいね！

毎週水曜日の午後 13:00~18:00

保護者・支援の方の相談も可（要予約）

学習サポート教室

宿題のサポートや勉強のアドバイス

- ◆毎週月・木・金 ①か②の時間帯
- 教室① 16:30~17:30
- 教室② 18:00~19:00
- ◆随時お問い合わせください！

2017年度 修復的対話（RJ）研修会①

会場 かんちゃんの小さな家

5月20日（土）13:30~16:30

◆講師 郭 理恵さん（RJフォーラム：大阪府）

サポーター（友の会）

入会をお願いします！

別紙の「ご案内」をご覧ください

お預かりする会費・カンパは、かんちゃんの小さな家の活動費として活用させていただきます。

友の会・活動支援カンパの振込口座
 振込先銀行 滋賀銀行
 支店名 安土支店
 口座種別 普通
 口座番号 403489
 口座名称 かんちゃんの小さな家
 代表 佐子 完十郎



※次号「通信第7号」は6月後半の発行予定です。

交流会・研修会のご案内



第13回多文化共生・地域交流会

3月12日（日）13:30~15:30

会場 安土小学校体育館

楽しい入学の準備

いっしょにしませんか♪

- ◆参加対象：外国にルーツのある方、小学校入学を迎えている方等
- ◆内容：入学に向けた説明と保護者の方からの質問・相談会／おやつ作りと交流会
- ◆参加費：子ども100円・おとな200円

第4回かんちゃんの小さな家：ホットルーム

3月26日（日）10:30~13:00

会場 かんちゃんの小さな家

◆沖縄の食文化 タコライスを作ろう！

◆後半は、みんなで交流会(^_^)

ミニ事例学習会 会場 かんちゃんの小さな家

3月11日（土）10:00~13:00

4月15日（土）10:00~13:00

◆アドバイザー 中桐万里子さん（京都市）

せせらぎ（編集後記）

◆昨年12月、8言語の情報紙「みみタロウ」（滋賀県国際協会）で、「かんちゃんの小さな家」が紹介されました。◆「心に引っかかっていることを打ち明けたり、『ここで話したいなあ』と思えるような、人とのつながりがたくさんできるのが『かんちゃんの小さな家』。ありのままの自分に心を解放できる『居場所』として、ぜひ利用していただきたいと思います。」とスタッフのイヴィさんは、インタビューで伝えました。◆その後、この記事がきっかけとなって「かんちゃんの小さな家」と出会い、相談支援や学習サポートが始まるという新しい芽生えが！「通信第6号」が、皆さまのネットワークで多くの方々に届きますように！（か）



ホットフィールド 子ども・若者支援 ヒューマンネット

かんちゃんの小さな家

〒521-1351 滋賀県近江八幡市安土町常楽寺956-2
 携帯 090-3708-3315（代表 佐子） FAX 0748-46-3283
 e-mail srmq61299@nike.eonet.ne.jp

